

官中秘策

73
2587
1

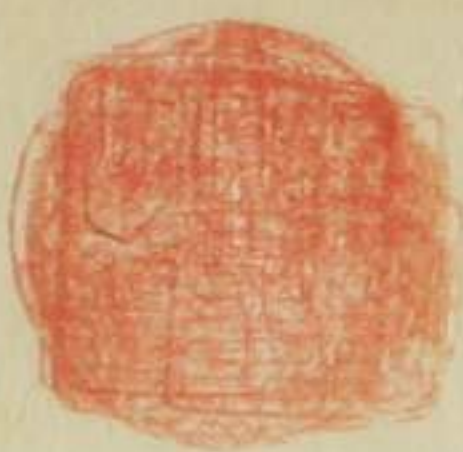


官中秘策

一

73
2587
1

門保
2587
卷一



官中秘策序
 我黨之子弟有所痛憂於時務而以問我者太多焉矣
 切哉此問也夫三書六史律令格式等者古也難波關
 原風土大成綱年安民嚴制柳營德川記日本史等者
 今也觀古可以知今且以思之其切於時務者何其鮮
 哉其功於時務者乃
 國家之禮文制度法律條例是也然我不得其位則彼
 類典撥要等亦是晚彼牽牛不日服箱於是旁求眾官
 羣吏家秘書者蓋有羊為矣是皆官府通用之俗文也
 竟謄寫之不更改之但粗分異類集曰官中秘策以後
 子弟安永四年仲秋既望西對西山元文齊序

西山物語

西山文衛官中秘策教十卷ヲ子弟ニ授テ語りけるは大學問の法
 学文有死学文アリ古ノ書ヲ山小ト訓シラモ今ノ用ニ立ヌヲ死学問ト云
 是ハ元来腹ノ中カラ持参ノナキ人ナルニ持参ト云ハ持テ生レタ智慧ヲ
 云然レニ此知恵ヲ凡学ハカレハ闇夜一足飛トテ殊外アリナキモノニ
 名刺ニ磨リテハ切レヌト云語ヲ聞ハ学問ハ只此智慧ヲ磨リテト
 合点トシ扱此学フト云ニ尊卑ノ品有テラニ今ノ時ヲ見レニ穢多烟
 七乞食堂今日備那頭馬方僧山伏巫坐頭山海ノ獵師能役者茶湯
 者立花師琴三味線小歌浄瑠璃蹴鞠尺八春打将棋指人相見古者
 手書繪書誹謗師軍書執金ノ口入身軀直ニ男醫者女医者外科針
 按摩骨續ナハ云テ皆面ニ具術ヲ学ヒ商ハ賣買ヲ学ヒ文武ヲ学テ

何ニナルヲナレハ光の具身ヲ修テ石ノ衆民ヲ治ル為ニ石ノ衆民モ亦面ノ学ヲ
何ニナルトナレハ生テ居ルタメニ統テ形ヲ成スルハ皆飯ノ糧ト云フ有天地ハ方
物ヲ育レテ以飯ノ糧トシ民之君ハ國天下ヲ治ルテ以飯ノ糧トシ其民ト云者
或秀ハ或面々ノ家職ヲ以飯ノ糧トス此外草木鳥獸麋鹿、至テ皆夫
々ニ飯ノタ子トスルヲ有是ヲ食ハテ生テ居ラレ又故ニ天地ヲケレハ万物ヲ
萬物ヲケレハ天地モナレハ万物ハ天地ノ飯之人ノ生レタルハ飯ノ出来タルカ如シ
生テ長クタルハ腹中ニアル飯ニ如シ死ヌ所ハ腹ヨリ下リテ尿小便消シ去
ルカ如シ天地目ヲ塞テハ夜天地目ヲ明レハ晝トナリ人間モ亦若此ニシテ
日ヲ重テ年具年百年月ニ死シ天地モ亦如此ニメ十二万九千六百年目ニ
死ス天地モ人間モ生テ居ルニ面トナリ此間ノナレハ古ニミリ天地ノ大徳ヲ生ス
ト云ルレハ生テ居ルル天地萬物ノ第一ニテ輝ハ露ヲ飲垣ハ土ヲ喰テ世ヲ渡ル

如ク人々得手ニ任テテ面々ノ家業ヲ第一ニ学テ生テイテモコレ又治学問
ト云テ必シモ書物ヲヨク計テ学テ去ルカラス古ノ言ヲ諳テ文武ノ道ノ
理ヲ悉クテ学テ國天下ヲ平治スルハ人君ト士大夫ノ家業ニテ飯ノタ子ナリ
治学問ハ此治学問ト云ニ第一時ヲシテ子ハ何ハ骨ヲ折テモツイ死学問ニ
ナルニ遠キ異國ノ皆道ヲ日本ノ今彼方モ此方モ今モ古モ替ラヌモノハ只仁
義礼智信ノ常德ト君臣父子夫婦兄弟朋友ノ倫理有テ天地ノ間
父母ナレハ此ハ人ナクシテ人々自然ニ五常アル故人ヲ万物ノ靈ト
云テ天地ノ間ニ人あり尊キモノナレハ道ハ聖人ノ格ハモノニアラス
シテ此五常ノ明ニ五常ノ止中人ヲ聖人ト云然レハ聖人トハ疵ナキ人ヲ云
知ルレハ古聖人ノ世ハ民ノ心モ淳ニシテ上ヨリ下ニ是ニ準レ玉レテ指陽
春ノ月ノ如シ此陽春ノ政事ハ先寒ノ風ヲ暖ニシ雪ヲ消シ氷ヲ解草

之工花モ咲間ル音見ル能ク行クモ政ルモ何ナリ穩ニ如此夏ナリ
秋ハナリ冬ナリ行ク以時代リ有見テ天地人間ノ壽命ニ別クテテ
イハレ古聖人ノ時ハ天地モ年モ十七八カ然レニ此四時ハ春ニアリテ
彼秋ノ楓葉ヲ梅ナリ思フ何ノ彼ニ立ヌ世語ニウレハ天地四時人
代推遷如此ニ異國代々ノ儒者ト云者人君ニ向テ每辰口ノ酸ク
ナルホト三代ノ徳政ヲクシ終ニ指味ト云献立カ真直指味ニ出来メ
ル献立タメシモナリヤナリ持前ノ秦ハ秦トナリ老所始里カ抗ニハ
ニリタル儒者モ大方此死儒者ニテハト思フ又ヤハリ漢ハ漢トナリテ
異國ノ世中モ己ニ六三代目ハ北狄ノ人明ノ天下ヲトリテ大清皇
帝ト号シ明ノ總駿モ芥子坊主トカハリメレク儒者流ヲ流シヤク
古ノ中華今ノ胡清ナト咲ケルヲ我ニシテ開テ不覺我腹ヲ隔替

セシムルヲ全ク戲言ニ非スケ様ノ学者ハ是居テモ今、振舞ハ天下ヲトル
者ト悟リタルカ是ニ付テ語有北前京都四條ニ於テ或平氏ノ武士是居
リ見物ノ居ル所ニ熊谷敦盛ヲ組伏テ今其首ヲ斬ントスルヲ見テ彼
武士ムツト刀ヲ拔彼舞臺ニ上リ源氏ノ熊谷許リヌト云ケレハ是居ノ
彼者ハ不殘樂マ、遊入、其跡ニテフツト目アケテ是ハト思フ中ニ
ハヤ廻リノ彼人來リテ別トテタリ是芥子坊主ニ流リ流シ老齋相
トハイカニ元來天下ハ天下ヲトルニキ路ノ人カ天命ヲ以テ天下ヲトルニテ
其時ノ政事ハ則天ヨリ出ルト云モ、故此ニ背ケハ天ニ背リ故大キナ事ナ
達ニ然レハ小刀細ニテ天下ハ取ヌモノト云フヲ知ルニシカルホトニ天下ヲ
取モトナルモ人ノ本心善ヲ好ミ惡ヲ憎ム常徳ニ當理人此理ヲ明
ムルハ此言ヲスルタメノ事ト理トニツキレハ體ト用トニツキナリテ手是

ナエタルカ如リ日月ノ形アレヒ光ナキカ如シ此ニ於テ屹ト目ヲ付テ
古ハ古今ハ今遠キ異國ノ古ハ回民近キ日本、今ハ數十氏レんケ所
古リト思ヒ此四ツヲ引テ残リヲ辨ニステトスルコト前ニ云春ノ時ニ秋楓
葉ヲホルカ如シト云フヲ見ルニ御兵今日本ニ生テ居ル此御代ハ即前
古天命ヲ以治玉フ天下ニテ此教十氏ヲ生メテ御政事ヲ輔佐スル
人ハ武士ノ職分ニ此武士文武ヲ学ハサレハ異國ノ教ヨリ兵御代
代武家諸法度ノ御條目ニ違背スル人ニ此文武ヲ学フニ孔子ノ師
スルヨリモキハナシカスルハ賁賤老少ノ差別ナリ何テモ自分ヨリ勝リ
タル人ヲ師トスルハ其智ヲミカリテ是レノ且近道ニテ即コレ孔子ノ師
ヲトリテ法ニササレハ活学問トナルニ或儒者ノ門内ニテフト抑腹人
有ケル所急ニ史記左傳ニ先例ハナキヤト考(タケ)ト云是レ世上儒者

時務ヲシラサルコトソレリタル語ナルニ此官中秘策ハ今ノ時務ニ應ズル
事ニ今ノ武士タル人直ニ鼻ノ光ニテ入ル事ノ集メタリシカレ文武濟
美一人見至ト云ニアラス各ノ懸望ニヨリテ聊ノ怠意ヲ申スナリ
且又文武ノ学ト云々今天下ノ書既ニ教十卷及ニ此学ニ儉約モ入ルニ
キ政人々魂氣ニ任セテ上ハ聖經ヨリ下ハ浄瑠璃ニ至テ見テ益ヲ
モノナシトカク今ノ用ニ立カレハ活学問ニ非ス然ルニ只古ノ會議ノ今
ヲ知ラサレハ世間ノ廣キ無宿モト云カ如シ又今ハカリニテ古ラシキ
レ世間見ルノ箱入ムスコト云カ如シ且文武ト云ハ前ニ云人々受得ル
五常徳ノ外ニ出ルモト云ハ文ヲハラテテ武ナク武ヲ離テテ文ナシテヨト
云ハハカヲ抜リハ武中ノ一事書リヨムハ文中ノ一事ニメ文武ハ云
ト云々非ス天地万物万事方理ニ於テ此文武ノハナルコトナシ故ニ博

學問ヲ悟思明辨篤行ト云ハ聖人ノ教ニ諸君願フハ聖人ノ治
學問ヲ慕ヒ云ト云

官中秘策目錄

此書ハ序ニ云ク通諸家ノ記録ト稱求テモ伝家ノ書ナク

卷之一

一是百第ニ卷ニ列シ日本國中ノ人取石言并領之ニヨリ白人馬
中政ニ以親式且其大者言ニ部族ト云々

一山城國 禁裡及ニ條中役人ニヨリ并天津伏見ホニ事ハ卷廿下
同ニ詳シ

一犬和國 竹奈良考行ニヨリ

一河内國 一和泉國 一播磨國 大坂市城ニ事由得人ニ事
依形ニヨリ

卷之二

一伊賀國 一伊弉國 附山田ニヨリ 一志摩國

一尾張國 尾張及由元祖ニ事 一三河國 一遠江國 岡石ニ事

由世系ニヨリ

卷六

一 天猷院様中代天下ノ諸大名急事家於の事

一 湯之家ニ事 一 越前家ニ事

一 河内家ニ事 一 出雲家ニ事

一 出雲代由先祖ノ事名ヲ知ル 一 河内代 神君ノ事

一 出雲代道徳源ノ事 一 河内ノ事 一 遠河ノ事

一 河内ノ事 一 遠河ノ事

一 駿河方甲斐方信濃方ノ事 一 河内ノ事

一 天正年中ノ事長吉ノ事 一 河内ノ事

一 慶長年中ノ事 一 河内ノ事

一 慶長年中ノ事 一 河内ノ事

一 出雲代前ノ事他ノ事 一 河内ノ事

一 上方ノ事 一 河内ノ事

一 河内ノ事 一 河内ノ事

一 上方ノ事 一 河内ノ事

一 河内ノ事 一 河内ノ事

一 河内ノ事 一 河内ノ事

一 河内ノ事 一 河内ノ事

卷七

一 河内家軍人ノ事 一 河内家軍人ノ事

一 河内ノ事 一 河内ノ事

一 河内ノ事 一 河内ノ事

一 一位流の道者之旨

巻口

一 喧嘩首の舟中計り

一 市一河平古

一 市法華の御書

一 領要早換水換り地宮

一 一位極書福徳

一 四形人達或の放火或の腹

一 七名口隠す付位別

一 刀七指通り

一 辻番不

一 久龍

一 市法華書莫

一 日光

一 市代書山記

一 市軍直下

一 市取

一 市取

一 市取

一 市取

一 市取

一 市取

一 市取

一 市取

巻廿七

一 市取

一 市取

一 市取

一 市取

一 市取

一 市取

一守治茶師
 一江戶御用茶師
 一松尾
 一和所治
 一西島松尾大久保主水
 一土居
 一乃の免
 一伊中職人
 一丸百十三人
 一松家
 一松家門好

卷廿一

一是古才三子二老
 一林東林二條
 一京師由來
 一林東林南極
 一極家方始
 一林東林法系
 一二月林裡
 一每羊柳
 一龍色

一伏見事 一天津事

卷三十三

一異國人付來事
 但琉球使臣并朝鮮回長途通信

官中秘策卷之一

西對 西山元文叔集

一 大日本國數合七十箇之總人數

一箇は男女を分ち
之數を記す

石高希領之事

附人の數は
石高に依り
希領大石高に
部數

一 大日本七十箇之人數詳名

二千五百九十一万七千八百二十一人

男數 千二百九十九万九千七百七十八人
女數 千二百九十一万七千八百二十一人

一 大日本七十箇石高詳名

二千五百七十八万五千九百九十九石

人別改定規程之事

一 諸國人數
在野科
在代官
在修
在應
在古
在子
在年
在當
在年
在改
在事

中百十一月と書す左の
あつ同土月集一冊あり

一 男女人数
十箇
之
由
此
之
由
以
推
例
と
計
算
す
年
數
不
同
也

一 市井地陸地と有村人好法由人好の得
 一 江戸幕府京大坂未良場伏見大津長崎所下而各地を先許し揚子
 并花園城下河地子免許之地人水も動福也人好不海
 一 石高の元禄年中回所も招き集むる也
 一 白旗の御旗と有子年毎に前にも御旗御旗と有
 一 武家刀吉と人 并又者諸國人好の内陸

右の寛延三年午十一月の御書に當り

一 寛延三年午人の御書に寛元元年子人の御書に寛文四年の御書に寛政四年の御書に
 人好二千万八千五百廿二人 右の御書に寛文四年の御書に寛政四年の御書に
 一 廣曆六年の御書に寛延二年午の人の御書に寛文四年の御書に
 諸國人好御書 二千六百六万二千八百二十一人 千三百三十二万二千八百七十八人

回とて御書に人好早五万三千の百人 回とて御書に二万九千九百人

右指合の内城と門御旗の御書に十は万口御旗
 七十ヶ国大名御旗の 二百六十二人 石高御旗と御旗

一 二万石	八十一人	一 二万石	四十二人
一 三万石	三十一人	一 四万石	六人
一 五万石	二十四人	一 六万石	十四人
一 七万石	十一人	一 八万石	一人
一 九万石	一人	一 十万石	二十二人
一 二十万石	五人	一 三十万石	八人
一 四十万石	一人	一 五十万石	三人

一六十万石 二人 一七十万石 一人
一百万石 一人

一七十七回諸大名知行石
千七百六十二万五千六百七十石
但知行人上向宗村言也於紀前
田代能一百万石

畿五 山城國 昔山背之号 非別山城別云

人数 乙到 葛野 愛宕 紀伊 宇治 久之世 相樂 鐵喜

一五十二万二千七百二十石 人 四 九十七万六千九百四十八人 男
石高 女 六十四万五千六百九十八人

一言二指四万石 子以百石指七石附 領主

一禁裡御料 一攝家親王方依家所給石大 百石以上

一天名一人 一禁裏御料 四万石 山城國中 兵之 右之能人 南代官 指
指了所藏之代 牙全 細石 堀川 隆中 之用 右之 御

一新院寺料 石手石 支那(并領)右内(并領)石手石

石手石 石手石 石手石

一寺院中料 石手石 右内(并領)石手石 石手石

年有林石 石手石 石手石 石手石

一女中石手石 石手石 右内(并領)石手石

一金石手石 石手石 石手石 石手石

右内(并領)石手石 石手石

一石八万石石手石 石手石 石手石 石手石

石手石 石手石 石手石 石手石

一十萬石石手石 石手石

右内(并領)石手石 石手石 石手石 石手石

大和國 十郡 添上 添下 平郡 唐郡

葛上 葛下 宇智 石手石

宇智 城上 城下 石手石 十市

山田 石手石 石手石 石手石

赤松奉行入 石手石 石手石 石手石

人石 石手石 石手石 石手石

一三十七万四千石 石手石 石手石 石手石

石手石 石手石 石手石 石手石

一十萬石 石手石 石手石 石手石

大和國 石手石 石手石 石手石

石手石 石手石 石手石 石手石

土形百之被 石形百之被 石形十之被 鍾進形亦九之被
 色書清百之被 新上形百之被 新上形百之被 二百之被
 理光形百之被 新上形百之被 新上形百之被
 今又又百之被

官中秘策卷上

官中秘策卷二

西村元文叔集

海東 伊智國 四拜 山田 伊智 石形
 人形

一凡万有三百四十人

四百七十人百四十人男
四百七十人百四十人女

一言接万有百四十人

伊智國 十古郡
 茶名 鈴鹿 河内 壹志 卷紙 多氣 務志 石形
 自辨 玉軍 安濃 服字 服所 渡會 多友
 人形

一二万三千石 玉井山城
 一二万石 田代山城
 一二万石 之宅御所
 一万石 大野御所
 一万石 大野御所

延喜に在りては、
 江ノ口に在りては、
 当城に在りては、
 倉庫に在りては、
 倉庫に在りては、
 倉庫に在りては、
 倉庫に在りては、

○遠土回 十江部 濱名 若原 引作 廣三 上野
 周野 山名 赤田 作野 藤原 盤田 山名

一三十三万二千七百四十石人 口 十七万五千二百七十八人 男
 十七万五千二百七十八人 女
 一三十三万二千七百四十石人 口 十七万五千二百七十八人 男
 十七万五千二百七十八人 女

一五万石の七石余 右田御所
 一三万石の石 西庄之水正
 一二万石の石 田沼之御所

延喜に在りては、
 江ノ口に在りては、
 当城に在りては、
 倉庫に在りては、
 倉庫に在りては、
 倉庫に在りては、
 倉庫に在りては、

○陸河内 七郡 志太 益所 有度
 丹波 廣野 馬世 陸河

人数
 三十一万二千八百十九人 口 十六万五千二百七十八人 男
 十六万五千二百七十八人 女

一五万石の七石余 右田御所
 一四万石 中田御所
 一三万石の石 大野御所

延喜に在りては、
 江ノ口に在りては、
 当城に在りては、
 倉庫に在りては、
 倉庫に在りては、
 倉庫に在りては、
 倉庫に在りては、

下總國 十三郡 葛飾 千葉 印旛 相馬 佐野
 海上 香取 地生 國田

人殺

一百五十方七千五百三人。○ 三十一方七千五百三人。 ぬ

一言の指立方八千三百三十五人。 ぬ

一一方二千人。 杉原 ぬ

一十方八千人。 久世 ぬ

一十一万人。 堀田 ぬ

一一万八千人。 木戸 ぬ

一七万人。 玉井 ぬ

一一方名 井上 ぬ
 一一方名 内務 ぬ
 一一方名 森田 ぬ

官印秘策卷之二

宿中秘策卷之三

西村元文叔集

○常陸國

十一郡

新治 真原 筑波 信太

河内

茨城

行方

那珂

久慈

多阿

鹿島

人教

一古千石方石七百七人

○

二十石方石六百七十一人

女

石言

一言九指言石七百七人

他之 大者十人

一三十五万石

水戸宰相

水戸宰相

東照神廟十一里内中獲山長河内氏物女屋長八里伏見誕生同十年
常列下事上修之同十年水戸様十五万石と修之七後加増ありとあり
元下在床中將領宣后長七条の武田方更代九月八年徳川家徳分

一二百石名 加茂伊豆守 中田城水練 三石名
 一一万石名 相垣長守 中津波山守 大石名
 一二百石名 八幡守人正 中津波山守 大石名
 一一百石名 市橋伊豆守 中津波山守 大石名
 一一百石名 小堀守人正 中津波山守 大石名
 一一百石名 遠坂守人正 中津波山守 大石名
 ○美濃回 十八郡 石原 不破 安八 池田
 大北 本原 席田 中津波 原見 右衛門 武藏
 郡上 可見 土岐 惠原 多氣 山縣 聖
 人数 中七万二千六百廿八人 女 男
 一廿三万三千九百廿八人 口 中七万二千六百廿八人 女 男

一三万石 松守中務大進 中津波山守 大石名
 一十石名 中津波山守 中津波山守 大石名
 一一百石 中津波山守 中津波山守 大石名
 一一百石 中津波山守 中津波山守 大石名
 一三万石 松守中務大進 中津波山守 大石名
 一四万八千石 中津波山守 中津波山守 大石名
 一三万二千石 永井大進 中津波山守 大石名
 一一万石 遠山守人正 中津波山守 大石名
 ○飛騨回 郡 大原 益田 大石

人殺

一七万二千二百二十六人

三万七千九百十人 男
三万はあはる 九人 女

石高

一五万石

○信濃国

十郡

水内

吉井

垣科

小縣

佐久

伊那

諏訪

筑摩

安曇

更科

一六十八万石

一六十八万石

石高

一五万石

一三万石

本多伊豆守

石高

一十方石

真田伊豆守

石高

一一万石

松平伊豆守

石高

一五万石

松平伊豆守

石高

一三万石

内方伊豆守

石高

一一万石

内方伊豆守

石高

一三万石

内方伊豆守

石高

一一万石

内方伊豆守

石高

一二万石

内方伊豆守

石高

上野国

十郡

碓氷

吾妻

利根

野馬

佐伊

新田

戸巻

邑樂

那珂

甘木

多胡

上野

大戸

大毎

持后

全田

石高

石高

一 二百石
 一 五百石
 一 七百石
 一 一千石
 一 一千五百石
 一 二千石
 一 三千石
 一 四千石
 一 五千石
 一 六千石
 一 七千石
 一 八千石
 一 九千石
 一 一萬石

西對 西山元文叔集
 河辺 村山 遺物
 内裡 量 山本
 秋田 田川 替
 平麻 田川 秋田 内裡 量 山本
 雄勝 平麻 田川 秋田 内裡 量 山本

官中秘策卷之三終

官中秘策卷之四

○出羽國 十二郡

雄勝 平麻 田川 秋田 内裡 量 山本
 人取

一 二十四万石
 一 二十万石
 一 一十八万石
 一 一十六万石
 一 一十四万石
 一 一十二万石
 一 一十万石
 一 八万石
 一 六万石
 一 四万石
 一 二万石

一言百指 万石 千石 百石 十石

一 十五万石
 一 一十二万石
 一 一十万石
 一 八万石
 一 六万石
 一 四万石
 一 二万石

上秋 輝 辻 大 衛
 大者 十 丈
 早 七 万 九 千 三 百 三 十 三 丈 男
 三 十 万 七 千 三 十 三 丈 女

一 一万石 上杉陣河守 新田

一 十石 沼井左衛門尉 吉田 新田 沼井 沼井 沼井

一 二万石 沼井 沼井 沼井 沼井 沼井 沼井

一 二万石 新元 沼井 沼井 沼井 沼井 沼井

一 二万石 杉本 沼井 沼井 沼井 沼井 沼井

一 一万石 沼井 沼井 沼井 沼井 沼井 沼井

一 二万石 沼井 沼井 沼井 沼井 沼井 沼井

一 二万石 沼井 沼井 沼井 沼井 沼井 沼井

○ 越前 杉本

一 二万石 八千人 沼井 沼井 沼井 沼井 沼井 沼井

一 一萬石 沼井 沼井 沼井 沼井 沼井 沼井

北 若狭 同 三郡 遠近 大坂 三万

一 七万石 七千人 沼井 沼井 沼井 沼井 沼井 沼井

石手

一 一万石 沼井 沼井 沼井 沼井 沼井 沼井

一 十石 沼井 沼井 沼井 沼井 沼井 沼井

○ 越前 沼井

一 三十石 沼井 沼井 沼井 沼井 沼井 沼井

一 一十石 沼井 沼井 沼井 沼井 沼井 沼井

石手

一 一万石 沼井 沼井 沼井 沼井 沼井 沼井

一 一十石 沼井 沼井 沼井 沼井 沼井 沼井

大坂 沼井

沼井 沼井

沼井 沼井

沼井 沼井

沼井 沼井

沼井 沼井

沼井 沼井

沼井 沼井

沼井 沼井

沼井 沼井

沼井 沼井

沼井 沼井

沼井 沼井

沼井 沼井

沼井 沼井

沼井 沼井

沼井 沼井

沼井 沼井

沼井 沼井

沼井 沼井

沼井 沼井

沼井 沼井

沼井 沼井

一 一万二千石 谷播磨守 右の何麻吹守家棟
○ 丹後國 右郡 加作 典謝 丹波 竹地 熊地

人教

一 千三方に子に子七十八人 四 六万の子に子九人 男
六万の子に子七十八人 女

言名

一 言移正万石の言四拾五石の 順之 大老之人
一 二万五石の 形如也 右の何麻吹守家棟
一 七万石 和平何掃守 右の何麻吹守家棟
一 一万石百石の 言拾五石の 右の何麻吹守家棟
○ 但馬國 八郡 朝来 春久 出石 氣多 榊崎
二方 七員 定合

人教

一 十石万石の 言七十八人 四 八万の子に子九人 男
七万の子に子七十八人 女

一 言移正万石の 言七拾五石の 順之 大老之人

一 一万石の 言拾五石の 右の何麻吹守家棟
一 一万石の 言拾五石の 右の何麻吹守家棟
○ 因幡國 七郡 法義 八上 智次 色次 言名
巨港

人教

一 十石万石の 言七十八人 四 八万の子に子九人 男
七万の子に子七十八人 女

官中秘本巻一に於

- 一 二万石 森武野守 町ノ赤穂殿様
 - 一 一万石 赤穂守 町ノ赤穂殿様
 - 一 一万石 遠近内匠 町ノ赤穂殿様
 - 一 一万石 一神土佐守 町ノ赤穂殿様
- 官中秘本
一〇万石
一〇万石
一〇万石
一〇万石

